

# 部 会 会 議 録

## 周南市まちづくり総合計画審議会 第3部会 第1回

日 時	平成16年8月5日(木) 14:00~16:00
場 所	市役所本館2階 第2応接室
出席者	委員 10人 稲葉和也、真島加洋子、歳光時正、福田隆文、松原香織 山上雅弘、高杉 憲、三浦 博、小松昭人、田中義啓 事務局 10人 山下企画財政部長、藤村経済部長、宮川企画調整課長 椎木中心市街地活性化推進室長、企画調整課(藤井、増本、中村、原田、三川)、熊毛総合支所地域振興課(中村)
資 料	第1回周南市まちづくり総合計画審議会会議録、部会会議録サンプル、基本計画参考資料1(関連統計データ)

### 会 議 内 容

#### 1. 事務局からの連絡

- (1) 会議の公開：総会、部会とも会議は公開とする。
- (2) 部会の会議録：サンプルのような要点筆記で作成する。

#### 2. 審議

##### (1) 基本構想の共通部分(第1章から第4章)について

前回の総会の中で出た人口や抽象的表現などの意見を踏まえ、共通部分の各委員の意見等を聴き審議を行った。

意見等

- ・基本構想の「時代の潮流」から「アンケート」への流れは説得力に欠ける。現状分析は基本計画で位置付けるとしているが、基本計画を見ないと基本構想が見えないことになり、構成としておかしい。構想自体が自己完結型であるべきだ。
  - ・基本計画と基本構想が分離しており、基本構想があって基本計画があるのが普通であり、逆になっている。
  - ・基本構想は簡単でよいと思う。「時代の潮流」から始まる点がいいが、一般論ではなく周南市の状況を述べ、アンケートなどデータを入れて課題を出さないとピンボケしてしまう。どこでも同じではなく、事実に基づいたユニークなものにするべきだ。
  - ・国際化や経済については、教科書どおりであり、山口県や周南市の事実を書いて欲しい。
  - ・環境への取り組みはどうか
  - ・住民サービスなどの周南市の取り組みはどうか。
- (事務局) ISOは取得できれば県内の市町村で初となる。市の重点事項としている。
- ・生ごみを減らす運動などをやっているが、こうしたことを基本構想の中で前面に出したらどうか。
  - ・顧客満足度や品質重視などは国際標準であり、こういうことが重要なので、グローバル化のような抽象的なことでなく、具体的にISOの取得などを強調し、積極的に書いたらどうか。
  - ・内容について、ひどいところも多く、全体的に一般的すぎる。内容分析にしても間違っ

ていると思われるところもある。基本計画を作るための説得材料が基本構想であり、これが大切である。

- ・現状認識をどうするか？人口にしても昼間人口、夜間人口などの数字もあってもよいのではないか。それに対して17万人がどうなのか考える必要がある。

(事務局)今は文章だけだが、製本時にはバックデータを掲載する。

- ・合併してからの現状分析が不明である。漠然とした認識はあるが、それぞれの地域のごとが不明なので、イメージできない。市全体で考えるべきだが、それぞれの地域の状況やバランスを見ながら作るべきだ。
- ・合併前の現状を入れて、全体の現状を書いたらどうか。
- ・中心市街地のことも、他の地域からはわからない。徳山では当たり前だが、その辺りを説得力のある説明が必要である。全体を踏まえた記述でないといけない。
- ・数字だけでも地域性は見えない。市の中での地域性や分布などを説明して、現状分析すればよいのではないか。
- ・合併しても自分の地域以外のことは不明である。合併し、新市として方向性を考え、現状と理想のギャップをどう埋めていくかが計画であり、このギャップが実現可能なのかも不明である。
- ・合併しても実感がない。若者が望む遊び買い物できる場所は市内にはない。家族で遊べる場所等があるといい。
- ・新市のアイデンティティである「私たちが輝く元気発信都市周南」については、これで全体像が見えるのか？
- ・広い周南市の中でピンとこない。
- ・「私たちが輝く元気発信都市周南」は私たちがつくるものだ。
- ・策定にあたりコンサルタントはどの程度のことを行ったのか。

(事務局)アンケートや基礎調査などで、構想の中身は自前で作った。

- ・基本構想は「why」が求められるもので、その理由を説明すれば足りるものだ。その何故かが述べられていない。例えば、国際化：基本構想や基本計画の中で、課題などからなぜ基本計画につながるかがわからない。なぜ国際交流を進めるのか。現状を追認するだけになっている。歴史的なことから「国際交流の必要性」が必要である。受身でなく積極的な記述が必要である。なぜかを説明するのが構想の本質である。

(事務局)国際化の指摘事項については、他の部会でも同様の意見があった。

- ・基本構想を質の高いものにするには、「何故」がポイントである。
- ・人口について、143,000人の推計が合併効果などにより17万人になるというのは、あまりにも唐突である。

(事務局)「17万人が幸せに暮らせるまち」を目指すという目標である。その内容として子ども、老人などは必要かもしれない。

- ・17万人にするための方策があって、それから17万人ではないか。書き方が逆ではないか。人口を増やそうとする意気込みが見えないとよくない。
- ・17万人と14万人では大きな違いだがコストはどうか。

(事務局)産業振興や中心市街地活性化などの効果がないと難しい。

- ・インフラ整備など14万人では、お金が減り、住民へのコスト負担が増えるのではないか。17万人にこしたことはないが、スタートの発想が間違っていたのではないか。人口が減ってもいいと思う。インフラ整備よりもソフトに力をいれ、内容を充実させる方

がよいのではないか。今、実際に住んでいる人が幸せなまち、よくなるまちをつくるイメージを持つことが大切ではないか。

## (2) 各論「中心市街地の活性化」について

項目の概要について、事務局より説明を受けた後、各委員より意見を聴き審議した。

### 概要説明

(事務局)旧徳山市の平成11年11月に中心市街地活性化基本計画を策定し、合併後も新市のリーディングプロジェクトとして位置付け、プロジェクトをつくり整備構想を作成中である。商店街活性化については、平成13年4月にTMO徳山を設立し、商店街、商工会議所、行政が一体となって、空き店舗対策、イベント実施のための団体育成、バス運行などを進めている。

### 意見等

- ・旧徳山市時代には、現実には棚上げしたが、合併後はトップ事業となっている。今、駅周辺に投資してメリットがあるのか疑問だ。駅南も含め、合併特例債を使い行い、これで活性化するのか、人口のこともあり、投資効果があるのか。「投資効果」が問題であり、中心市街地はどうか大きな問題である。絵に描いた餅ではないのか。
- ・地域分担を考えると、集中投資はよくないが、割り振りを考えながら行うことは必要である。市として必要な事業である。
- ・「市の顔」として駅周辺の活性化は重要である。中心商店街が寂れたのは行政の責任ではなく、商工会議所や商店自らが活性化することが必要である。佐世保市などの例があるが地元で努力をしている。
- ・例えば、祭りの時など人とで賑わうのに7時で店を閉めたりするが、商店街の人達が祭りを盛り上げようとする意識が必要である。
- ・頑張っている人を広げていくためのソフト的支援が必要である。
- ・駐車場代が必要でも、魅力ある店があればよいのではないか。カフェとか。
- ・徳山にも大学生の行く店があったが7月に閉店し、これで行くことがなくなった。学生は、広島に行く人が多い。山口では福岡に行くことが多かったが、地元にもいい店ができて、人が増えている。
- ・目的の店が1軒あることでまちに行く人もいる、そのことが大切である。
- ・広報機能が不足している。インターネットなど情報発信や紹介が必要である。どこに行けば欲しい物が見つかるか分からないのが現実である。行政としても協力することができるのではないか。
- ・イベント等に合わせて商店街が何かしようという動きがない。高校総体があり5000人の人が来ているが、そのために買い物マップを作るとか、そういうことを行ったらよいのではないか。これが動きのきっかけになる。
- ・郊外型大規模店舗の立地が、中心商店街が寂れた原因のすべてではない。大規模店舗の周辺はそんなに栄えているわけではなく、羨む必要はない。駅周辺商店街自身に原因があることを認識するべきである。関係者が本気にならないと再生しない。
- ・「新たな交流拠点」を作ってもプラスにはならないのではないか。
- ・駅前の老朽化した施設への整備、投資は必要である。若者が行く商店街には景観を考えることも大切である。
- ・商店街の人はどう考えているのか。

- (事務局)商店街連合会の青年部は危機感を持っている。まちの魅力は何かを考えている。
- ・市の顔として事業を取捨選択し、実施していくべきである。
  - ・基本構想のアンケートで「今後のまちづくりにおいて重点的に取り組むべき事業」は何かとの質問について「都心の拠点性の向上」の選択枝は、徳山に比べ特に熊毛、鹿野地区では低い数字になっている。投資を考えると無駄はしないことだ。
  - ・どんどん事業を進めるのではなく必要なものだけを行っていくことが大切である。
  - ・事業はもっとスピードアップし、具体的に進めていくことが必要である。
  - ・商店街も事例研究等を行い、何もしていないという印象ではない。出来るところから実施しており、ただ、行政をたよっているわけではないと思う。
  - ・基本計画の中の施策を実施して活性化するイメージが湧いてこない。駅周辺は顔なので整備は必要だが、人が集まる条件になるのか。つながりが分かりにくい。
- (事務局)駅周辺のインフラ整備により人が集まりやすい環境をつくり、商店街を再活性化する。南北が分断され、一体化のための整備が必要である。
- ・「新たな交流拠点」について見通しはどうか？
- (事務局)県の施設として誘致したい。内容については、アンケートを行い、産業会館の部分は詰めている。運営に負担がかからないように、賑わい創出のための施設の誘致を要望しているが、まだ具体的には煮詰まっていない。
- ・インキュベーション機能に重点をおくと賑わいとは別の視点であり、目的が別であり、うまく機能するか不安である。一般の人を集客して賑わいを創出するのは疑問である。また、立地がどこかも大きく影響する。駅南ならますます難しいのではないか。
  - ・業績の評価、期間、責任を整理しないといけない。
- (事務局)交流拠点は県が施設だけ作るのではなく、県と市で協議している。なかなか結論はでない。
- ・臨海公園を先に整備したらどうか。
  - ・県の施設誘致もどうなるかわからないのに中心市街地の計画はできるのか。5年でまにあうのか。
- (事務局)基本計画に述べているとおり、誘致が基本というスタンスである。
- ・今の状況は「のぞみが止まる」ではなく「のぞみも止まる」という程度である。経済力も新山口駅に負けないものを持っており、もっとトップセールスをすべきだ。
  - ・まちづくりは発想の転換が必要である。熊本では、がんの病院で治療し、帰りには観光して帰るような施設もある。若い人の意見を聞いて実施する必要がある。